８　中皮腫センター

中央診療施設として外来機能を呼吸器内科と呼吸器外科のスタッフで共同運営している。中皮腫の中でも特に胸膜中皮腫および石綿関連胸部疾患に対する診療を重点的に行い、希少がんである胸膜中皮腫疾患の国内随一のハイボリュームセンターとして、全国広域から患者さんが集まる。具体的な検査・診断・治療への移行には、呼吸器内科、呼吸器外科、放射線科へ引き継ぐ。それぞれの症例検討を、画像診断グループ、放射線治療グループ、病理部門が加わった定期的な合同検討会で実施し、病院あげての協力体制で診療に取り組んでいる。国内では今後当面の期間、アスベスト関連疾患・中皮腫の増加が予想されており、われわれ中皮腫センターは重大な社会的責務を担う。

[診療内容・専門分野]

（１）胸部悪性腫瘍、アスベスト関連腫瘍（胸膜中皮腫、肺癌）：合同カンファレンス（呼吸器腫瘍評議会、呼吸器病態・画像・病理セミナー）において、各分野のエキスパート同士で診断及び治療方針を検討する。治療に関しては、臨床情報、病理学的背景、合併症の有無、全身状態、社会的背景を総合的に考慮し、各患者さんに最新・最適な治療法を提供する。日本石綿・中皮腫学会(JAMIG)のコアメンバーとして、中皮腫に関する多施設共同臨床試験を牽引し、新しい診断・治療法の開発に貢献する。医療福祉の面では、アスベスト関連の職業歴のある労災申請や、職業歴のない石綿救済法申請に準拠し、医療社会福祉部が主導して丁寧に対応する。全国からの紹介・セカンドオピニオンを随時受けており、経験豊富なエキスパートが対応する。

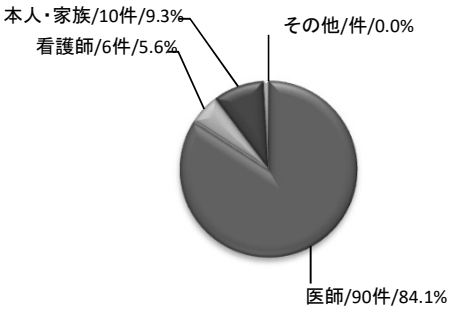
（２）アスベスト関連良性疾患：胸膜プラーク、石綿肺、良性石綿胸水、びまん性胸膜肥厚、円形無気肺等のアスベスト関連良性疾患については、悪性腫瘍の併発の検索を行う。定期検診を厳重に行い、病変の出現時には適切に診断・治療へ移行する。

（３）その他の胸部腫瘍（胸部悪性疾患、縦隔腫瘍など）：中皮腫以外の肺・胸膜疾患や縦隔腫瘍についても、胸部悪性腫瘍として診療する。これらの疾患についても呼吸器腫瘍評議会において十分に検討を行い、遅滞なく診断・治療を提供する。

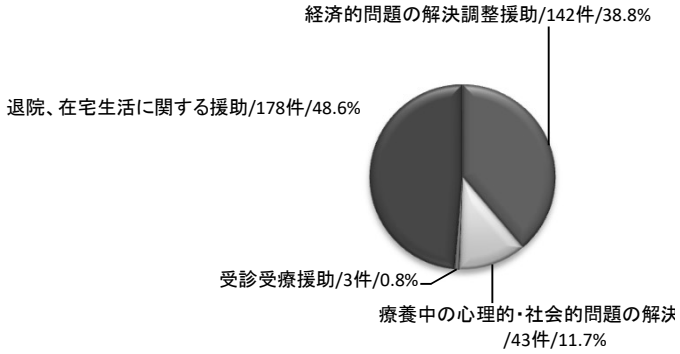
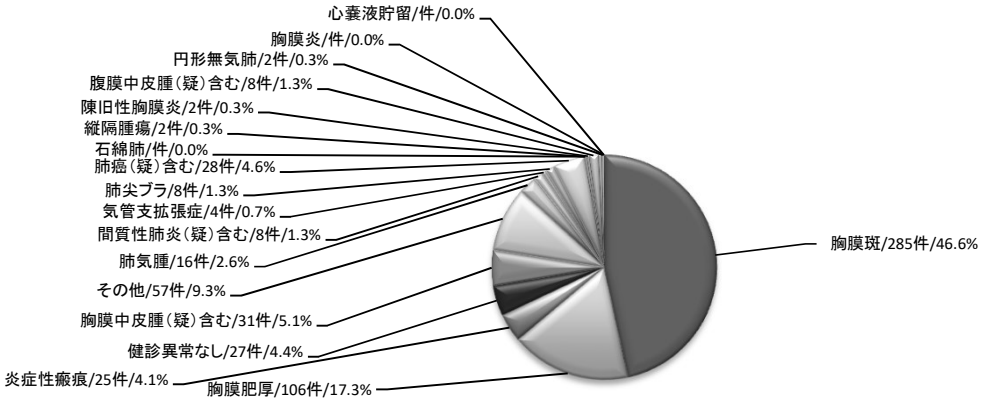
８－１　年度別延受診者数　（人）

区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2025年度構成比率(%)
手帳健診	426	418	430	405	389	63.6
西宮・尼崎市健診	88	81	90	98	91	14.9
アスベスト健診	37	36	35	31	32	5.2
院外紹介	35	55	26	32	46	7.5
院内紹介		1				－
セカンドオピニオン		1	2			－
医療相談						－
その他	112	109	93	60	54	8.8
合計	**698**	**701**	**676**	**626**	**612**	**100.0**

８－２　2025年度相談・支援活動・紹介経路の構成比率(合計107件)



８－３　2025年度相談・支援活動・援助内容の構成比率（合計366件）



８－４　2025年度診断名の構成比率（合計612件）